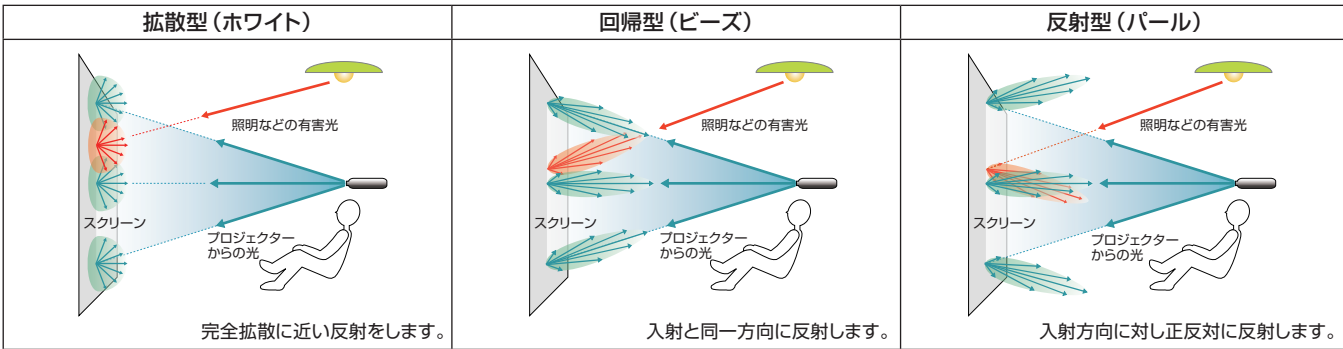


スクリーンの反射特性

スクリーンの反射面の生地は大きく分けて拡散型、回帰型、反射型の3種に分類されます。それぞれの反射特性をうまく利用して最適な映像環境を設定していくことが重要です。 ※スクリーンの生地特性による光の反射角度は、垂直方向・水平方向に同じ性質を持ちます。



スクリーンゲイン

スクリーン生地が固有に持っている反射特性を数値で示したもので、スクリーンの特性を示す重要な要素となります。理論的には標準白板と呼ばれる完全拡散板(酸化マグネシウムを焼きつけた純白板)に光を当てたときの輝度を1とした場合、同一条件下でのスクリーン生地の輝度との比率を表しています。

スクリーンゲイン測定法

スクリーンサンプルの中心に垂直方向に光を照射し、中心から同一円弧上を左右60°の範囲で5°ずつ移動したポイントでの反射光の明るさを、輝度計で測定します。

反射特性曲線図の見方

- A. 視野角5°における実用スクリーンゲイン
- B. 水平垂直方向反射特性曲線
- C. ハーフゲイン角(視野角:P.7参照)
- D. ハーフゲイン

ハイレゾ(高解像度)に最適なスクリーン「ピュアマットⅡeX」(拡散型)

オーエススクリーンが2000年に生み出したスクリーン「ピュアマット」は、アナログハイビジョンを背景に、高画質映像の時代を先取りし、開発されたスクリーン生地です。2002年「ピュアマットⅡ」、2003年「ピュアマットⅡplus」と進化し、ハイビジョン時代に相応しいスクリーンが完成しました。そして2010年に誕生した「ピュアマットⅡeX」は4Kにも対応するスクリーンとして評価されています。

フルハイビジョン映像の大敵は「モアレ」です。モアレとは一定のパターンとパターンが重なったときに起る干渉パターンのことです。ハイビジョンの高精細プロジェクターの映像を構成する光の点(画素)と、スクリーンが光を拡散させるために加工している表面の凹凸がモアレの原因となります。ピュアマットⅡeXの幕面を構成するのは、ランダムに織られた特殊な繊維。この織りの不規則性が、モアレを抑え、光を均一に拡散させ、より広範囲に偏りの無いナチュラルで高精細な画像を再現させます。

ホームシアターで高い評価を受けているピュアマットⅡeX。ぜひ様々なシーンでお使いください。

ピュアマットⅡeX

高精細な4K時代を迎え、改めて注目されるフルHD・4K対応スクリーン

ピュアマットはココ・タテに特殊な繊維をランダムに織りあげて、スクリーン生地として開発した織物(ファブリック)です。

この不規則性がモアレを抑え、光を均一に拡散させ、高性能フルハイビジョンプロジェクターに最適のスクリーンとして評価されています。

WF203 ■ 5°ゲイン0.93±5% ■ ハーフゲイン角60°以上

新製品